

# つなぎびと

TSUNAGI-BITO

2026年号(令和8年号)

2026年3月13日(金)  
フリーペーパー

編集：一般社団法人「檸檬新報舎」 発行：大阪公立大学スクールソーシャルワーク評価支援研究所



## 光る春 YOSSの賦

それは、大阪公立大学現代システム科学研究科教授を務める山野則子さんの最終講義(9面参照)の10日前だった。3月3日の雛の節句、愛知県豊田市にある豊田市立高橋中学校からメッセージが届いた。

### 新規不登校、保健室来室激減

「YOSSを導入してからの1年半、新たに不登校になる生徒が激減しました」  
仲田英成校長からの知らせである。それを示すデータ(グラフ⑤)が添えられていた。

〈グラフは、2022(令和4)年度(赤色)、23(令和5)年度(緑色)、24(令和6)年度(青色)、2025(令和7)年度(紫色)の不登校生徒の月別変化を示している。例年、夏休み明けの9月以降、不登校生徒が右肩上がりで増えていくのに、YOSSを導入した24年度は鈍化し、25年1月～3月は横ばいにとどまった。その後の2025年4月からも新たな不登校はYOSS導入前より少なくなっている

もうひとつ、病気やケガ以外で保健



仲田英成校長



山野則子さん

室を訪れる生徒数の変化を月別と一日あたりで表したデータ(グラフ⑥と⑦)も添付されていた。

「保健室を訪れる生徒が、90人から20人に減った月もありました」

〈⑥のグラフは、2022年度(赤色)、23年度(緑色)、24年度(青色)、25年度(紫色)の月別保健室来室者数の変化を示している。YOSSを導入した24年度は、明らかにそれまでの2年間より減っている。25年度もさらに好転している

山野さんが、YOSSの開発を始めたのは2017(平成29)年春。

「16年に大阪府から委託されて行った10万人のこどもの貧困調査の結果を受けて、『何か政策を打たなければ』とあって、YOSSの開発を始めました」

それから今年で10年目。年ごとに「効果」が顕著になってきた。

2つのグラフは、お茶の間でも語れる、YOSS効果の明快なエビデンス(証拠)といえる。高橋中で、一体何が起きてきたのか。(檸檬新報編集長 平田篤州)

### YOSS スクリーニングシステム

Youngsters' Obstacles Screening System

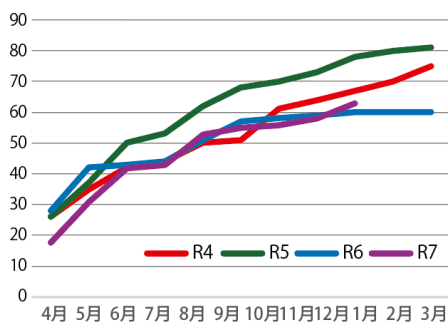
すべての児童・生徒を対象にして潜在的なSOS(いじめ、虐待、貧困など)を早期発見して適切な支援につなぐ「予防的支援」の実現が特徴だ。

まず、学期ごとに全校一斉にスクリーニング会議を実施。担任が遅刻・欠席など日々の変化を約30項目にわたってチェックして入力。AI(人工知能)が、気になる子どもをピックアップしてA、B、Cのグループに暫定的に振り分ける。Aは教職員らによる校内支援。Bは子ども食堂などの地域資源の活用。Cは、児童相談所など専門機関の活用だ。

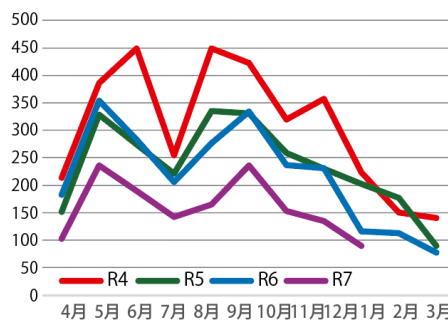
その場で、次のステップである校内チーム会議にあげる子どもについて議論する。校内チーム会議では、あがってきた子どもについて、SSWやSCのほか、行政などの外部機関を交えたチームでアセスメントを行い、支援の方向性を具体的に決める。

山野さんは「支援の入口と出口の重要な判断は人間、AIはその判断ルートの途中で助ける…『AI サンドイッチ』による支援です」と話している。

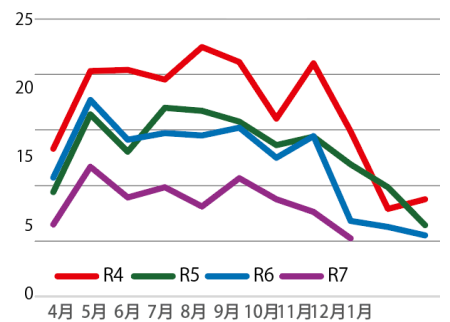
不登校月別変化



月別保健室来室者数



一日あたりの保健室来室者数の変化



# 「スクリーニング会議は居酒屋です」

なぜ、不登校の生徒や保健室の来室が激減したのか。山野則子さんが2025年12月19日、豊田市立高橋中学校を訪ねた時に、その「解」を見つけた想いに包まれた。プロレスラーの異色の映画監督、ライオン・マカヴォイさんが、山野さんや高橋中の取り組みを映画の中でとりあげるためのロケを午後控えた日の朝だった。



山野則子さん（左）と仲田英成校長

仲田英成校長は、YOSSの検証のためになればと、山野さんに7人の教員へのインタビュー時間をつくっていた。

「YOSSスクリーニング会議をひと言でいえばなんですか」

こんな質問に、「全ての子どもをみることが出来る場です」と教員たち。

「学校は、子どもたちの全数把握が出来る場」という、山野さんがよく使う言葉を的確にとらえての受け答えだ。そんな中で、一人の教員が言った。

「会議は、居酒屋です」

その心は、どの教職員も子どもたちのことを気軽に話せる場になっている、ということだ。職員室では、雑談する時間が極めて少ない。働き方改革が言われるようになって、時間外労働が増えることを気にする。空気が、ぎすぎすしてくる…そんな中で、気軽に話せる公認の場が、YOSSスクリーニング会議だということである。

## 先生は情報の宝庫

「居酒屋」の発言に、山野さんは、YOSSの開発に着手した2017年ごろの活動を思い出していた。

山野さんは当時、堺市の学校で、先

生たちといっしょに手弁当でスクリーニング会議の在り方を研究していた。

「その時、私がこれだ、と思ったことがあったんです。ケース会議や公式な場所では絶対に出てこないような話が、どんどん出てくる。たとえば、『あの子のお母さん、最近、子ども産んだみたいなんです。だからあの子、今、さびしいのではないかなあ』とか…」

ある教員が言った。

「親のことも知っています。子どものことも知っています。気になることはたくさんありますが、話す場がない。でも、YOSS会議は、たわいもないと思われる話をしてもいい場…めちゃくちゃホッとします」

平場で、いい案がどんどん出る。

「先生は情報の宝庫です。YOSSスクリーニング会議は、今すぐ使える技を生み出せる場。当時、そんな印象を持ちました」

山野さんは、こう話した。

## 髪飾りへのまなざし

山野さんは、髪飾りのエピソードにふれた。

いつもかわいい髪飾りを付けている子が、きょうは付けていないことに、新任の先生(女性)が気付いた。

「何か、家庭であったのかも。お母さんに何かあったのかも」

YOSS会議でこう話すと、ベテラン教員が「なるほど。じゃあ、これからは髪飾りをチェックポイントに入れて見て行こう」となった。

「私がよく例に出す『具のないラーメンを毎日食べている』と言いくる子どものことを話題にする気づきに通じる話です。スクリーニング会議(写真④)は、内部で知恵を出し合ったり、しんどさを共有する場。外部の専門職も入る校内チーム会議(写真⑤)は『学校だけじゃない、みんながこんなふうに助けてくれるんだ』ということを確認できる場…私のなかでは、こんな区別があります」と山野さん。



高橋中では、この2つのYOSS会議によって「みんなが一つに向かっていく」という空気が醸成された。教職員から子どもたちへの声かけが増え、適切なチェックも出来るようになった。だから、保健室への来室者も少なくなり、新規不登校数が激減した。山野さんの見立てである。

## 「YOSSは意味ない、でも我が子はYOSSの学校へ」

山野さんは、YOSSの社会実装をめざすなかで2017年から10年近く、教育現場のいろんな意見を聞いてきた。理解が進む一方で、「YOSSにどんな意味があるのか」と懐疑的な意見もあった。山野さんは、傾聴しながら、ゆっくりとYOSSの役割や実効性を説明する。

最近のことである。YOSSに批判的な教員に、まもなく小学校に入学する子がいることを知り、そっと尋ねた。

「YOSSのある学校とない学校だったら、どちらの学校に行かせたいですか」

即座に答えた教員の言葉は、「YOSSの学校です」。それは、教員ではなく、まさに保護者の立場になっての声だった。

山野さんは、「保護者の声」を一層、大切にしたいと思っている。YOSSの礎のひとつとして尊重して、子どもたちを救う仕組みを社会につくっていかうと考えている。



# 「YOSS導入を機に学校中が笑顔に」



笑顔の生徒たち。映画監督のマカヴォイさんと談笑した（2025年12月19日）



高橋中は、豊田市教育委員会から2024（令和6）、25（令和7）年度の「ICT活用」の研究推進校に指定されて、YOSSを導入。研究主題を「生徒一人一人の居場所づくりを支える学校—多面的な生徒理解とスクリーニングによる適切な支援を通して—」と定めた。そして、誰もが笑顔になる「ここにプロジェクト」と名付けてスタート。イメージキャラクター「いいねくん」も誕生した（写真右下）。

2026年2月3日（節分）午前10時30分、山野さんは、名鉄豊田市駅の改札口を出て高橋中学校に向かっていった。マカヴォイ監督の映画撮影のために訪れてから1カ月半。仲田校長から、YOSSを中心にした3年間の歩みを聞いた。

途中、思わず山野さんがつぶやいた。「（YOSSの魅力について）ここまで言う方はいない…」

驚きの発言を、ボイスレコーダーから再現する。

## 〈仲田校長の発言〉

### ① 生徒の生活の実相に迫れる

YOSSを入れることで、学校中が笑顔になりました。コロナの影響もあって、恒例だった春の家庭訪問がなくなりました。生徒たちの生活がコロナ禍後、一層見えにくくなっている。その実相に迫れるのがYOSS。すごく助かっています。

### ② 生徒と先生の距離が近くなった

先生が、楽になりました。先生もYOSS

の会議によって、情報が入って安心するのです。子どもたちにも「安心」が伝わるみたいで、先生に護られている、見てくれている、となる。それによって先生の指導が伝わりやすくなったり、学校が落ち着いたりします。若い先生方も、ベテランの先生のような特別な技術がなくても、YOSS会議で子どもに接する方法がいろいろわかってくるし、この子にはどういう声かけをすればいいのか、これは言っちゃいけないんだ、ということがわかる。それで、子どもとの距離が近くなる。

### ③ 先生の笑顔は「子ども理解」が原因

先生が笑顔になる原因は、「子どもを理解することができる」と思えるからです。YOSSを基盤にした会議で、学校の中で見える表面的な事だけじゃなくて、子どもの家庭のこととか、暮らしの背景までをつかむことが出来る。いろんな問題が見えた時に、先生だけで解決するんじゃなくて、行政や福祉の専門的な機関や地域の機関につなぐ。この子がつながって、とりあえず落ち着くだろう、と先生もほっとする。だから笑顔になれる。

### ④ 「気」がよくなる

繰り返しになりますが、これまで先生だけで抱えていた問題を、いろんな人が助けてくれる。それが見えてくるので先生はホッとします。子どもも安定する、家庭も親もホッとします。それで、学校も落ち着く。私は、「気」という語句が好きです。雰囲気、元気、勇気、やる気…この

「気」がよくなる。学校の「気」が…。その結果、みんな元気になって、にこにこして温かくなって、保健室に来る生徒も減るのかあ、と思っています。

### ⑤ 3年前は教育困難校！？

高橋中学校の生徒数は、600人を超えて、豊田市内の28校のなかでも多い。外国ルーツの生徒や就学援助の申請者も多い学区です。2022年度、23年度は不登校生徒が10%を超えて「教育困難校」とされていましたが、YOSSを導入した24年度の後半から不登校生徒は減り始め、新規の不登校生徒も少なくなりました。今年度（25年度）も、ずっと平和で、落ち着いています。みなさんに「先生方も、のびのびやっています」と言っても、信用してくれません（笑）。

### ⑥ ここまで変わる、を知ってほしい

YOSSを中心にした会議で、地域のなかに、生徒の支援に協力してくれる施設や機関があることがわかり、教員の安心感につながっています。支援の内容を、いつだれが行うか具体的に決められるので、すぐに実行に移せます。YOSSの導入に呼応して、みんなで仕組みをつくっていけば、こんなふうにならざるを得ない、ということを知っていただきたいですね。



# 全校あげて創意工夫、好事例に



豊田市立高橋中学校

今や、YOSSの社会実装の好事例(グッドプラクティス)となった豊田市立高橋中学校の取り組み。山野則子さんが所長を務めるSSW評価支援研究所の「YOSSマイスター養成講座」を受講して、YOSSマイスターになった高橋中の教員は10人。YOSSの導入実績がある全国46自治体の約380校のなかでも、群を抜いている。

高橋中の校内チーム会議には、豊田市の子ども相談課、よりそい支援課、生活福祉課の職員が出席しているほか、豊田市社会福祉協議会のスタッフらが参加。SSW、SC、教員とともに「だれが何に困っているのか」「どうしたいのか」をアセスメントして、支援の方向性を具体的に決めている。このメンバー構成も、例をみない。

さらに、会議や授業時間の見直しを行って、新たに年間15時間を生みだして、YOSSの入力やスクリーニング会議の時間にあてた。工夫を重ねて、1時間30分で同時に700人のスクリーニングを実施。校内チーム会議も、合計10時間で約200人の生徒たちの暮らしの現実を考えてきた。

## 高橋中に特別感を持ってほしくない！

とにかくすごい。仲田校長はじめ、教員の熱量が校内中を笑顔にしている。

「でも」と、山野さんは言う。

「高橋中に特別感を持ってほしくない。高橋中だから出来る、仲田校長だからう

まくいっている、ではありません。YOSSをサンドイッチにしたスクリーニングシステムの価値と運用方法を先生方が理解して、地域につながってくだされば、この学校でも効果が期待できます」

事例としては、小規模校ではあるが、2020年度からYOSSを導入している大阪府能勢町の町立能勢ささゆり学園(小中一貫校)や、2023年度から町内全ての小中学校7校に導入している佐賀県みやき町の実践がある。

能勢町の学校では、暴力行為が導入前の43件から6件に減り(2025年2月時点)、就学援助の利用も9.5%から15.5%に増加。みやき町の学校でも、「AIの判定で教員が気付いていなかった児童生徒にも対応でき始めた」との報告があがっている。

「属人的でなく、持続可能な『仕組み』にしていくことが大切です。高橋中のように、まず、校内が一丸となってまとまる。それから学校を地域に開いていく。YOSSマイスターのようなスクリーニングを実践する人材養成・確保も、カギの一つです」

山野さんは、こう話した。

## 社協の出番

### 「YOSS連絡会でできればいい」

学校を地域に開く、スクリーニングの人材の養成・確保の2点で、山野さんが今、大きな期待を抱いているのが全国の自治体にある社会福祉協議会だ。



中田繁美さん(中央)

実は、山野さんが仲田校長の話聞いた場には、豊田市社協の前常務理事・事務局長で、今も現役の中田繁美さんが同席していた。

中田さんは、2023年春に常務理事・事務局長を退任して、「法人化50周年企画担当主幹」に就任。2025年10月4日に豊田市福祉センターで開かれた「法人化50周年記念式典」を成功に導いている。



顕彰状を贈られた  
仲田校長(右)

この式典で、豊田市小中学校長会の会長だった仲田校長と縁が出来た。仲田校長は式典で、市内の104校を代表して豊田市社協から顕彰状を贈られた。そし

てこの日、YOSSについて、山野さんや仲田校長と懇談の場を持ったのだ。

山野さんは一通り、YOSSスクリーニングシステムについて説明した後、こう繰り返した。

「どんなことでも、仕組みにしないと継続しません。高橋中だからできる、仲田校長だからうまくいく、ではダメです。社協のみなさんは、ネットワークをつくるプロです。地域のことをよく知っている。社協が『協力する』ではなくて、『いっしょの立場で動く』。そんな存在になってほしい。社協が入っている所は成功しています。協力ではなくて、地域福祉のミッションとしてやる。ぜひ、いっしょにやれないでしょうか」

じっと聞いていた中田さん。身を乗り出すようにして、記念式典での顕彰状の話 시작했다。





カメラを回すマカヴォイ監督。ロケが進んだ

「表彰状ではなく顕彰状としたのには、意味があります。表彰状は、ある物事に対しての表彰です。顕彰状には、それで終わらずに、これからもよろしく、という期待が込められています」

学校には、やっていただきたいことがまだまだある。そんな思いを込めての顕彰状だった。

中田さんは、さらに続けた。

「式典当日の出席を全ての校長先生にお声がけしましたが、出席は20数校でした。欠席された校長先生のもとを、後日、社協のコミュニティーソーシャルワーカー（CSW）が訪ねて、顕彰状をひとり一人手渡しで贈らせていただきました」

社協が学校との接点を大切にしている、というエピソードだ。

「顕彰状を郵送することもできますが、それではダメ。顔の見える関係をつくるチャンスです。現に、校長を訪ねたあるCSWは『1時間、つかまっちゃいました』と話しました。そのコミュニケーションが、大事なんです」

山野さんが、すぐに言った。

「中田さんのその感覚が欲しいですね（笑）。社協の力で、『YOSS連絡会』とかできれば最高ですね（笑）」

## チーム会議は重層事業の「支援会議」

高橋中の校内チーム会議は、実は国の重層的支援体制整備事業（重層事業）の「支援会議」に位置づけられている。

2021年の社会福祉法の改正によって重層事業が始まり、支援会議が設けられた。支援会議は、会議の構成員に対して守秘義務を設け、本人同意がない場合でも、課題を抱える人に関する情報を安心して共有できる場だ。

「まさに、本人同意がなくて相談できるのは大きいです。全ての子どもをみている学校では、ちょっと気になる子どもが多く存在しますが、軽微なレベルなのでそのままになってしまう。学校が持っている子どもや家族の情報、SC（スクールカウンセラー）の相談歴など、通常であれば学校側から外部に提供するのは難しい情報について、重層側の、つまり福祉側の専門職と早期に共有できる。赤信号になる前の黄信号の時点で、子どもを救える手立てが検討できる。予防的支援の実効性が、高まります」と山野さん。

## 重層事業を人材生み出す光に

そして、続けた。

「仕事や会議を新たに作るのではなく、すでにある仕組みを活用する。学校（教育）と福祉それぞれに内在する需要を双方で共有し、普段の活動としてビルトインしていく。そこから、新たな人材が生まれてくる。たとえば社協のみなさんです。SSWの絶対数が少なくても、重層事業をうまく活用すれば、スクリーニングシステムを回す人材を生み出せます」

高橋中では、まさに学校が重層支援の場になっている。そして、豊田市は、まち全体がソーシャルワーク機能を実装した仕組みそのもの、という時をめざしている。

学校と福祉の間に立ちをはかる厚い壁。それを、YOSS導入を起点に崩し、重層事業との協働によって乗り越える。そんなシナリオが描けるのだ。

山野さんが、重ねて中田さんに言った。

「協力じゃなくて、地域福祉のミッションとして社協さんといっしょにやれたらうれしいですね（笑）」

## YOSS伝授に高橋中の先生が校区の小学校へ

豊田市でYOSS導入校を増やす構想は、SSWなどの人材が足りない、との理由で2026年度の予算化は見送られた。高橋中は2026年4月から、YOSSスクリーニングシステムを軸にした「ここにこプロジェクト」を続けていく。

仲田校長は言った。

「高橋中の校区にある小学校4校に広げられないか、検討しています。高橋中の先生たちが小学校に出かけて、YOSSスクリーニングシステムの運用方法を伝える。小学校の段階で黄信号の子どもをひとりでも多く救えば、いずれ高橋中に入学してくる子ども達ですから、高橋中にとってもありがたい。小、中学校がつながる好循環を創り出せば、人材難を乗り越えられるかもしれません」

中田さんも、うなづきながら話した。

「小学校に広げる話を聞いて、腑に落ちました。ホッとしました。要諦は、予防的支援ですものね。中学校になってからでは遅いケースもある。小学校のPTA会長をした経験がありますが、その時、しみじみそう思いました」

山野さんが全国で取り組んでいる「社会に子どもを救う仕組みを創る活動」をとりいれた映画化の準備は、順調に進んでいる。

高橋中、大阪公立大学などでのロケが終わり、2026年5月の公開にむけて最終段階に入っている。

YOSSの賦<sup>うた</sup>が、銀幕に流れる日はすぐそこだ。その真ん中に子どもがいる。



## SSWの旗手 「ひとりでかかえこまないで」 そこから歩みは始まった

山野則子さんは、「SSWの旗手」と呼ばれている。国がSSWを全国の学校に配置し始めた2008(平成20)年より前の2005年春、大阪府は国に先駆けてSSWを組織化して運用をスタートさせた。その立役者の一人が、山野さんだった。だが、「旗手」と呼ばれる所以は、それより10年以上前の活動にまで遡る。それは、先進的と言われる大阪のSSW事業の胎動でもあった。(平田篤州)

### 初めの一步

1994年3月26日、堺市のサンスクエア堺(堺市立勤労者総合福祉センター)で、シンポジウムが開かれていた。



メインテーマは、「学校と相談機関の連携」。主催者は、誕生したばかりの「子どもの相談システムを考える会」。NPO法もない時代。先生へのメッセージ「ひとりでかかえこまないで」を合言葉に誕生した、任意団体だ。

その代表幹事のひとりが、山野さんだった。

山野さんは当時、堺市福祉事務所の家庭児童相談室で家庭相談員(ソーシャルワーカー)を務めていた(写真)。



「非行、不登校、虐待、いじめ…。年間、170件ぐらいのケースを持っていました。子どもたちが、悲鳴をあげている。でも、相談機関と学校の連携ができていない。支援者のネットワークをつくって、まず、お互いの仕事を理解しよう。そんな想いから立ち上げた団体です」

考える会には、小・中・高校の教員、

堺市の保健所、教育センター、児童育成課、家庭児童相談室、生活保護のワーカー、大阪府子ども家庭センターなどから約30人の有志が集まった。

日本が子どもの権利条約を批准したのは、1994(平成6)年4月22日。その約1か月前の「初めの一步」だった。

### 弁護士とスクラム

実は、さらに前段がある。山野さんは業務の中で、虐待事例に伴う3つの裁判にかかわっていた。その時、大きな力となったのが、弁護士との連携だった。

1990年ごろ。まだ虐待防止法もなく、理不尽な状況に歯がゆい思いをしていた際に知ったのが、当時唯一と言われるくらいに第一人者の弁護士である。当たって砕けろで、厚かましく講師に招き、講演の後、コーヒー一杯で虐待事例の相談をした。あつという間に複数の弁護士、警察や病院などのチームが出来た。不可能が可能になっていく様を、ともに歩めた。

そこに呼ばれて後から参加したのが、のちのちカナダの視察にもいっしょに行くことになった、地元堺の女性弁護士で、山野さんの子どもと同じ保育園の母親だった。

福祉にとどまらない外部との連携が、いかに大切か。連携や協働を重視する山野さんの活動を冷ややかに見ていた関係者も、理解を示し始めた。

このころ、山野さんは支援関係者に呼びかけて、定期的な勉強会を開いていた。全ての子どもを分母にした、虐待の実態調査もまとめていた。

勉強会は、今も公立大学で続く、フライデーナイト「学校コラボ講座」の源流であり、虐待の実態調査は、山野研究室が得意とする大がかりな量的調査の萌芽ともいえる。いずれも、その後の「子どもの相談システムを考える会」の活動に



山野則子さん  
つながる、貴重な一里塚だった。

### 集団食中毒(0-157)、学級崩壊

家庭児童相談室は1964(昭和39)年4月、都道府県または市町村の福祉事務所に設置された。都道府県及び政令指定都市に設けられている児童相談所(大阪での呼称は「子ども家庭センター」)の市町村版ともいわれる。

ワーカー(家庭相談員)は非常勤だったが、仕事は多忙を極めた。

「家庭訪問したら、帰りに学校に寄って、警察に寄って…。まともな昼食はとれず、パンをかじる日々でした」

そんな時でも、容赦なく難題が降りかかる。阪神淡路大震災の翌年の1996年の「0-157」による学校での集団食中毒事件。97年ごろから大きなニュースになっていった「学級崩壊」…。どちらも地元堺だった。子どもたちの心のケアや家庭環境の改善が大切になり、シンポジウムやセミナーのテーマに取り上げた。

### 「ぼくはネグレクト」

「考える会」の活動は、夜か、土曜、日曜だ。小学4年生と小学1年生ぐらいのころだった。山野さんは、2人の我が子連れて参加することもあった。虐待イベントのチラシを封入する作業を、子どもたちが手伝ったこともある。

「ぼくネグレクトです」

忙しく活動する母親に、我が子はいたずらっぽく「ネグレクト」という虐待用語を使ってみせた。

「当時はまだ、なじみの薄い言葉だったのですが…」

山野さんは、苦笑した。



# ゾウの足元で<sup>あり</sup>蟻が相撲…では駄目だ



大阪狭山市教委とSSW養成で連携協定を  
むすぶ山野さん（2025年7月11日）

「子どもの相談システムを考える会」の活動を続ける山野さんに、大きな転機が訪れた。

大学教員への道だった。

神戸少年事件が起きた翌年の1998年、関西学院大学の博士課程で学んでいた社会人院生のインタビュー対象者になった。

〈壁を打ち破るソーシャルワーカー〉と  
いった意味合いの博士論文を書くにあたり、  
山野さんに白羽の矢があたったのだ。

「子どもたちのために、ぜひ、学校と  
地域の連携を深めていってください」

そんな想いを熱く話した山野さんに、  
院生は言い放った。

「山野さん、現場にいる場合ではない。  
研究者になってください。もっと社会を  
変えなアカン。『あなたがこれをやってほ  
しい』ではなくて、あなた（山野さん）が  
やるべきです」

そのころ、データを集めて分析してエ  
ビデンス（証拠）でものを言っていない  
と政策は変わらない、とつくづく思っ  
ていたが、どちらかといえば、「ゾウの足元  
で蟻が相撲をとっている」感じになって  
いた。

一気に研究者への想いが高まった。

その翌年だった。大阪弁護士会の  
峯本耕治さんが来て、「考える会」の活動を  
視察した。

「これだ！自身のやり  
たかったことだ、と評  
価していただきました。  
その後、峯本さんから



峯本耕治さん

『堺のような取り組みをするNPO法人  
を立ち上げたい。ぜひ、いっしょに』と  
お誘いを受けて、私も理事に加わらせて  
いただきました」

教員や保護者、子どもたちをサポート  
するNPO法人TPCだ。この峯本さんと  
の出会いも、21世紀の新たな飛躍の起  
点になった。

## 2005年、大阪府がSSWを組織的に配置

事件は、寝屋川市にある小学校の職  
員室で起きた。2005年2月14日午後3  
時10分、卒業生の少年（当時17歳）が  
職員室に侵入して、居合わせた男性教員  
1人と女性教員、女性栄養士の計3人  
を刺身包丁で刺した。男性教員は死亡、  
女性2人も重傷を負った。

池田小事件の衝撃が消えぬ中での校  
内乱入事件。緊急に対策を取らなくては  
ならない。その一つが、日ごろから峯本  
さんや山野さんが教育委員会などに説  
いていた、SSWの配置だった。府教委の  
担当者との協議を重ね、府域の7ブロック  
に7人のSSWを配置したうえ、峯本  
さんや山野さんら4人がSV（スーパーバイ  
ザー）としてサポートしていく体制をつ  
くる案がまとまった。

だが、事件発生から新年度のスタート  
までわずか2カ月。予算は取れるのか。

杞憂だった。予算は成立、春爛漫の  
4月、全国に先駆けて組織体としての  
SSW体制が生まれた。

「SVは、個別ケースのアドバイスにな  
りがちですが、私はSSWといっしょに学  
校に入りました。最も重要なのは、継続  
性を担保できる仕組み作りだと考えて  
いたので、メゾ、マクロの視点でスー  
パージョンを続けました」

山野さんは2000年に家児相を退いて  
関西学院大学の大学院へ。修士課程を  
修了して、当時は私学で教員をするか  
たわら、博士課程で学んでいた。

## 2008年、全国配置スタート。 SSW評価支援研究所設置へ

3年が過ぎて、さらに事態は動いた。  
2008年、国がSSWの全国配置を始  
めた。ただ、配置基準の定めはなく、運用  
は都道府県の自由。仕事量もバラバラで、  
職責もはっきりと定められていなかった。  
SSWの8割が元教員で、社会福祉士な  
どの福祉専門職は2割にとどまっていた。

そんななか、山野さんはずっと「質の  
高いSSWの人材養成が不可欠」と思っ  
ていた。関係機関に人材養成の仕組  
みを創るように働きかけていたが、思  
うように進まず、大阪府立大学に赴任  
した2007年、SSWの研究会を立ち上げた。  
そして2015年、SSW評価支援研究所  
を設立した。

年表（8面）は、2000年以降の大阪府  
におけるSSW事業の歴史を示している。

## SSWの未来は明るいのか





山野さんは、文科省やこども家庭庁な  
どの役職を精力的にこなしている。手  
元に「学校現場におけるスクールソー  
シャルワーカーの常駐化に向けて」とい  
う冊子がある。SSW評価支援研究所が、  
文科省の2024（令和6）年度の委託調  
査で行った研究の報告書（2025年3月）  
を要約した冊子だ。

SSWの未来は明るいのか。「効果的  
な活用のために」と書かれたまとめの項  
には、次のようにあった。

- 政策として、SSW増員・時間確保
- SSW自身のマクロ実践力の向上
- 学校側のSSW認識改善
- 連携の仕組みの見直し
- SSW担当教員の校務分掌上の位置づけ

表紙には、〈「常駐」とは、学校から  
見て「常に学校に居ること」、「緊急時  
に対応可能なこと」である〉と書かれて  
いた。

道はなお険しい。でも、前に進むのみ。  
まんなかには、子どもたちがいる。

|              | 大阪府小中学校スクールソーシャルワーク  | 大阪府高校スクールソーシャルワーク  | 子どもに関する主な法令等   |
|--------------|--|--|--|
| H12(2000)    |  |  | 児童虐待の防止等に関する法律   |
| H16(2004)    |  | 2005.2 寝屋川事件をきっかけに<br>SSWやSSWSVの組織体制構築   | 発達障害者支援法   |
| H17(2005)    | 【小中学校】<br>大阪府単独事業:SSW配置事業開始<br>(7地区7小学校へ配置)<br>「不登校半減計画」(~2007)  |   |  |
| H18(2006)    | →各地区でのモデル活用から<br>市町村教育委員会主体の活用へ  | 2008.4 チーフ制導入  | 認定こども園法  |
| H19(2007)    |  |  |  |
| H20(2008)    | 【小中学校】<br>国委託事業を活用して府域市町村へ配置<br>(SSWSV・チーフSSW・SSW)   |  |  |
| H21(2009)    | 【小中学校】<br>国補助事業を活用して府域市町村へ配置<br>(SSWSV・チーフSSW・SSW)   | 府立高校において、<br>校長マネジメント費用で<br>SSWを独自に採用  | 子ども・若者育成支援推進法  |
| H22(2010)    | →市町村単独事業の有無を含め、<br>市町村と協議の上、府からの配置回数を決定  |  | 生徒指導提要   |
| H23(2011)    |  |  |  |
| H24(2012)    |  |  | 子ども・子育て支援法   |
| H25(2013)    |  |  | いじめ防止対策推進法   |
| H26(2014)    |    | 【府立高校】<br>キャリア教育支援体制整備事業(H28年度終了)<br>→府の事業によるSSW配置事業開始(配置校6校)                        | 子供の貧困対策大綱  |
| H27(2015)    |  | 【府立高校】<br>再編整備事業(エンパワメントスクール)開始<br>(2事業、配置校9校)                                       |  |
| H28(2016)    |  | 【府立高校】<br>様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業開始(H30年度終了)<br>(3事業、配置校15校)                            | 児童福祉法改正  |
| H29(2017)    |  | 【府立高校】<br>課題早期発見フォローアップ事業(H30年度終了)<br>(3事業、配置校21校)                                   | 学校教育法施行規則改正  |
| H30(2018)    |  | 【府立高校】<br>課題を抱える生徒フォローアップ事業開始<br>(2事業、配置校26校)  |  |
| H31/R1(2019) | 【小中学校】<br>府から府域市町村(中核市除く)への補助事業化<br>→これまでのSSWSVを府全域担当SV、<br>チーフSSWを市町村支援担当SVとして<br>資格要件化<br>→市町村事業サポートのため、<br>市町村SSWの資質向上をめざす育成支援研修、<br>ミドルリーダー研修の開催 | 府全域担当SV<br>市町村担当としてSV体制に   | 児童虐待防止対策に係る<br>学校等及びその設置者と<br>市町村・児童相談所との<br>連携の強化について   |
| R2(2020)     | 市町村SSWの資質向上をめざした<br>育成支援研修、ミドルリーダー研修開催   |  | ヤングケアラー支援に向けた<br>福祉・介護・医療・教育の<br>連携プロジェクトチーム(国)が<br>とりまとめた報告書に、<br>地方自治体においても<br>ヤングケアラーの実態把握に<br>努めるよう示された。 |
| R3(2021)     |  |  |  |
| R4(2022)     |  | 【府立高校】<br>ヤングケアラー支援体制強化事業開始<br>(3事業、配置校99校、SSWSVの配置)<br>→すべての府立高校がSSWに相談できる体制を構築     | こども基本法<br>生徒指導提要(改訂版)  |
| R5(2023)     | →市町村が明確な事業方針を持ち、<br>効果的に事業推進するために<br>「システム構築検討会」を年3回開催   | 【府立高校】<br>再編整備事業<br>(多様な教育実践校※R6よりステップスクールに名称変更)開始<br>(4事業、配置校105校、SSWSVの配置)         | こども大綱<br>COCOLOプラン   |
| R6(2024)     |   |  | 子ども・若者育成支援推進法改正  |
| R7(2025)     |  | 【府立高校】<br>ヤングケアラー支援体制強化事業における<br>SSWの配置方式を変更し拠点校型を開始<br>(4事業、拠点校7校、配置校29、SSWSVの配置)   |  |

# 出席者200人、教え子も登壇して最終講義

## 現代システム科学研究科教授 山野則子さん

日本子ども家庭福祉を牽引してきた山野則子教授が3月末で退任し、4月1日に大阪公立大学の特任教授に就任する。最終講義は3月13日、中百舌鳥キャンパスで行った。2007（平成19）年春に着任後、ゼミ生は130人、指導した院生も49人を数えた。所長を務めるSSW評価支援研究所で雇用した研究員も35人となり、大規模研究室の歩みとなった。（つなぎびと取材班）

「こどもの社会化がこどもを救う：研究と実践の挑戦」

これが、最終講義のテーマだった。

配られた挨拶文には、宮城や福岡など遠方から来阪した人々をはじめ、出席者への感謝が綴られていた。そして、「学生のみなさん（学生だったみなさん）」は、私の誇りです」と書かれていた。

新しい門出に、山野さんが敬慕してきた人々も集った。SSWの研究を大きく後押ししてくれた、元学長の奥野武俊さんは来賓として出席。元日本社会事業大学学長の島大蔵さんも、ビデオメッセージで登場した。



奥野武俊さん



島大蔵さん

そして、山野ゼミから巣立った教え子2人が登壇した。2018（平成30）年春に卒業した三枝まりさんと、今春卒業する野崎彩有里さん。事前に話を聞いた。

「高校時代からの憧れ、丁寧な個別指導に感謝です」<sup>まき</sup>三枝まり

先生には18歳から、10年以上お世話になりました。

私は、子ども時代に不登校を経験したことから将来は不登校支援をしたいと考



え、郷里の福岡県の定時制高校に通っていた時に、SSWという職業に興味を持ちました。高校のSSWの方が参考資料としてくださったリーフレットが、山野研究室で作られたものでした。

この出合いを機に大阪府立大学をめざしました。定時制高校で学びながら受験勉強して、合格出来ました。

3回生になって迷わず、山野ゼミへ。研究の作法、クリティカルシンキング、社会実装につながる研究などについて、基礎的な内容から発展的な内容まで幅広く学ばせていただきました。

2018（平成30）年3月に卒業して、府大で修士課程を終え、博士課程に在学中です。現在は、福岡に戻って不登校経験者が多く在学する通信制高校のスタッフをしています。将来的には、訪問支援を中心とした不登校支援事業を地元で展開したいと考えています。

YOSSを導入していた能勢町（大阪府豊能郡）の小中一貫校に向かう車中で、様々なお話をしたことが印象に残っています。運転は、山野先生です。高校生のころから憧れていた山野先生と2人で過ごす、贅沢な時間でした。

どんなに忙しくても個別アポの時間を取ってくださる、熱心な学生指導の姿勢がありがたかったです。

先生のもとで学ぶことができ、本当によかったです。

「まっすぐでかわいい方、もうひとりのお母さんです」<sup>あかり</sup>野崎彩有里

高校生の時に子ども関係のお仕事がしたいと思ってSSWのことを知り、山野先生の研究と実践に出会いました。

「この人のもとで学びたい」と思って



国指定重要文化財の高野口小学校で



2022年4月に、入学。1回生の時、山野先生の教育福祉学概論を受けて「おもしろいなあ、SSWは魅力的だ」と改めて思

い、山野ゼミへ。山野先生が主宰されている学会やYOSSの講座にも、参加させていただきました。

昨年2月に、山野先生と3回生のゼミ生5人の6人で、和歌山県に1泊2日のゼミ旅行に出かけた時のことです（写真上）。道の駅でサツマイモの詰め放題があって、宿に帰ってみんなで大きさを比べていたら、山野先生がニコニコ顔で動画をとってくださいました。

「もうひとりのお母さんみたい」

その時、そう思いました。週1回のゼミでは、お誕生日が近くなったゼミ生のお誕生会をしてきました。誰よりも乗り気になってくださるのが、山野先生です。どんな距離感をとったらいのか手探りの状態の時に、先生の方から壁を壊してください。ほんとにまっすぐでフットワークのいい、かわいらしい方です。

私は今後、ミクロとマクロをつなぐ、現場感覚を政策とか行政に活かせる仕事に就きたい、と考えています。今（3月5日）、卒業旅行でベトナムです（写真下）。最終講義が楽しみです。

## 苦学生に、未来への希望が灯った 介護福祉士・保育士養成給付型奨学金制度 奨学生交流会



介護福祉士や保育士の資格取得を目指す学生に、返済義務のない奨学金を支給する生命保険協会大阪府協会の活動が、2025年度も苦学生に希望の灯をともした。2月19日昼、大阪市北区のホテルモントレ大阪で行われた、奨学生の交流会・記念品贈呈式。今春から

福祉現場に巣立つ奨学生の感謝の言葉と決意表明に、出席者のだれもが心打たれた。(平田篤州)

生保協会の奨学金は、介護福祉士や保育士の資格取得を目指す最終学年の学生に、返還義務のない奨学金(年

間24万円)を一括給付する制度だ。多くの奨学金制度が返済義務を課す中で、安心感のある給付として異彩を放っている。

出席した奨学生は、専門学校、短大、大学などの15人(保育士志望9人、介護福祉士志望6人)。ランチの後、恩師と共にステージに上がり、あいさつした。

介護福祉士は1989年度、保育士は2017年度から奨学金制度を開始し、これまでの奨学生は両制度合わせて、全国で7072人となった。大阪府では、今年度16校・19人の学生が奨学金制度を活用した。

介護福祉士志望のなかには、4人の東南アジア出身の奨学生がいた。ミャンマーからのミョウ・タンダー・エさん(25)も、その一人だ。

11面に続く 

### 支援活動アラカルト

#### 「なんでやねん！」からはじめよう 子どもの権利条約関西ネットワーク

2026年2月7日、大阪市中央区の大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドンセンター)で、ドン事業共同体(指定管理者)と子どもの権利条約関西ネットワークが主催した「子どもの声」をまんなかに、今と未来

をつくるフォーラム「なんでやねん！」からはじめようが開かれた。

大阪公立大学1回生の二葉さん(写真右端)ら約100人が参加。「子どものけりん なんでやねん!すごろく」を使ったワークショップを開いて、子どもの意見表明権などを考えた。大阪府協会が、協賛した。



#### 「みんなで仲良くテレビタイムを楽しみます」 子どもの家

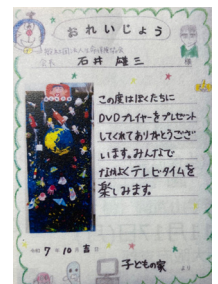
かわいい「おれいじょう」が届いた。2025年10月21日に大阪府協会の原嶋孝明理事が訪問して、ブルーレイレコーダーを寄贈した、児童養護施設「子どもの家」(大阪府茨木市)からだった。

「この度はぼくたちにDVDプレイヤーをプレゼントしてくれてありがとうございます。みんなでなかよくテレビタイムを楽しみます」

寄贈式で、舟木康二施設長は「家庭的な雰囲気の中で、子ども一人ひとりが安心して生活できる環境づくりに役立てていき

たいと思います」と謝辞を述べた。

よく見ると、礼状は丁寧に下書きされていた。



#### 大阪府社協、大阪市を通じて福祉巡回車、物品など寄贈

大阪府協会は2025年10月20日、大阪市中央区の大阪社会福祉協議会(井手

之上優会長)で、池田市社協、高槻市社協、大東市社協、河南町社協の4社協に福祉巡回車を寄贈した。また、12月12日には大阪市北区の大阪市役所で、こども青少年

局や福祉局の局長に、児童養護施設や高齢者施設などに贈るデジタルカメラや車いす、玩具、子ども用自転車などの目録を渡した。

# 「前へ。これが私の歩む道。がんばります」

ミャンマー出身 奨学生(介護) ミヨウ・タンダー・エさん (25)

冷気の中の春の光。3月5日昼過ぎ、南海電車貝塚駅近くの大阪社会福祉専門学校校の応接室。介護福祉士をめざす、タンダーさんに聞いた。(平田篤州)

## 初めての日本

「寒い」「家に帰りたい…」

ミャンマーからマレーシア経由で関西空港に降り立った2024年3月29日朝。タンダーさんは、こう思った。高校時代から留学を夢見ていたが、熱帯育ちの身には、日本の寒さは少し酷だった。

岸和田市の特別養護老人ホームの職員寮に入って働き、大阪社会福祉専門学校で学ぶ。そんな異国での暮らしが、不安と期待の入り混じったなかで始まった。

## 看護大学の時にクーデター

19歳。最大都市ヤンゴンにある看護大学3年生の時だった。2021年2月1日、国軍によるクーデターでアウンサン・チーさんの民主政権が倒れた。

ミャンマーの大学は、政権の管轄下で運営される。タンダーさんは大学をやめて、現地の日本語学校へ。1年間の学びでM2(中上級レベル)の資格を取り、日本への留学を決めた。

「スーチーさんは、信用できる人。でも、今の政権は…」

ミャンマーでは、今も国軍と反体制派の武力衝突が続き、内戦状態。国内避難民は360万人を超えて、人道危機が深刻な状態になっている。

## はい、いいえしか…でも今は80%読解

日々の生活は、大変だった。

「施設の職員さんが、スーパーに連れて行ってきて色々教えてくださいました。でも、来日当初は『はい、いいえ』しか言

えなくて…。お買い物の時は、前の人はどうやっているのかを懸命に見ました。私の村にはスーパーなどはありません。レジも初めてです」

言葉や文字の壁も、やはり大きかった。施設での記録なども、スマホをそばにおいて、文字や言葉の意味などをチェックしながら悪戦苦闘。毎晩、午前2時を回る日々。「何か間違えたら恥ずかしい…。」そんな思いが先に立って、会話も、ずっと苦手だった。

「私、いける!」と思えたのは来日1年後。今ではニュースを聴いても理解できるし、新聞も80%は読解できる。こちらが持っていった2025年発行の『つなぎびと』も、活字を指で追いつながらすらすら読んだ。

## 働いたお金の半分は仕送り

故郷のイヤワリのニユ村まで、ヤンゴンからバスで2時間。両親と学生の2人の妹がいる。家族とは毎日、スマホで連絡している。

「施設で働いたお金の半分は、仕送りしてきました。2人の妹も、まだ学生なので…。生保協会の奨学金は、とても助かりました。奨学金がなかったら、介護の勉強時間を削ってでも働かないといけません。心にも、余裕が出来ました」

施設では、認知症の人などへの対応が難しいという。

「おむつ交換で、綺麗にしてあげることが一番好きです。利用者さんから『気持ち



笑顔で夢を語るタンダーさん

ちいいわ』と言ってもらえた時、とてもやりがいを感じます」

専門学校では、介護の基本、医療的支援、調理、レクリエーションなどを学んで無事、卒業した。今春から介護の仕事が待っている。

## 広がる夢、ケアマネの資格もとりたい

タンダーさんは今後も、日本に住んでケアマネなどをめざしたいという。

「これから、私は人と接するお仕事をします。利用者さんや先輩に教えてもらいながら頑張りたい。これが私の歩む道。前へ、前へです」

担当した教員の浅井大輔さん(写真)が



「何か欲しいものはあるの?」と聞くと、すぐに答えた。

「ギターです。音楽は癒されます。日本の歌も好きです。

Kiroroの『未来へ』とか…」

♪ほら 足元を見てごらん これがあなたの歩む道…

## 田中さん、お疲れさまでした。

生保協会大阪府協会事務局長交代

3年にわたって事務局長を務めた田中信也さん(写真①)が、3月末で退任。4月1日から、藤川幸一さん(写真②)が着任します。田中さん、ありがとうございました。藤川さん、よろしく願います。



YOSS 事業をやっていくのがこども未来社会研究所のように見えますが、YOSS は、あくまでも学校と地域社会をつなぐ Hub (連結軸) です。

YOSS の運用に関わる研修や講演会の開催で、「学校」や「教師」を主語とする教育現場と、「地域」や「住民」を主語とする地域社会の間に立ちはだかる壁を取り払い、「こども」を共通の主語にして考えていく。子どもたちが、当たり前「しんどい」と言えて、当たり前「届かない声」を拾い上げられる世界をつくっていく。それが、私たちこども未来研の最大の目的です。



一般社団法人こども未来社会研究所 代表理事 山野則子



厚労省社会・援護局の南孝徳さんと談笑する山野則子さん (2月17日)

## こども未来社会研究所 本格始動

山野則子さんが昨年4月に立ち上げた一般社団法人こども未来社会研究所(大阪府堺市)が、山野さんの特任教授就任と共に、本格的に動き出す。理事5人、スタッフ4人の陣容でのスタート。大阪公立大学の「大学発ベンチャー」という立ち位置で、YOSS 事業や「こども未来創造プラットフォーム」の活動などを担いながら、子どもを真ん中に置いた研究・実践を進めていく。

YOSS 事業については、これまで大学で行ってきた社会実装を引継ぎ、実証実験の枠を超えて持続可能な社会事業としていく。複数の自治体がすでに利用しており、今後も全国展開していく予定だ。こどもを誰一人取り残さない社会の実現を目指す。

山野さんは、「学校や家庭だけではなく、安心安全な居場所を地域に広げる。じゃあ、私、これしようかと自発的

に動ける…そんな世界に近づきたい。子育ては、決して一人でするものではありません。子どもと向き合うのは一人じゃなくて、地域のいろんな人とやっていきたい。壁を一つずつ乗り越えて、子どもを真ん中に、誰もが手助け出来たり、逆に子どもに助けってもらったりする社会構造を実現していきます」と話している。



## 生命保険事業の根幹は、公共の福祉への貢献です

生命保険協会大阪府協会会長 石井雄三

2025年度の福祉施設等支援募金は、大阪府内の生命保険会社で働く1万6275人のみなさんから、総額853万3111円が寄せられました。



児童福祉施設をはじめ、高齢者、障害者施設、社会福祉協議会、日本ライthouseなどの社会福祉法人のほか、大阪公立大学SSW(スクールソーシャルワ

カー) 評価支援研究所や、子どもの権利条約関西ネットワークなどに寄付させていただきました。

第1回目からの募金累計額は、4億1173万2529円になり、寄付先は延べ1645カ所にわたっています。

会長に就任して1年。公共の福祉への貢献は、生命保険事業の根幹、礎との認識を日々新たに、

活動を重ねてきました。心温まるお手紙やメッセージが並ぶ、冊子『感謝』(写真)をみながら、今、一定の役割を果たせたかなと思っています。

奨学生の交流会も、感動的で勉強になりました。留学生がとても多い。少子高齢社会ですけれども、生命保険会社がやれることはまだまだある、と感じました。

日々の業務に忙殺されて、生命保険事業の根幹を忘れてはなりません。今後も、福祉を「我が事」として考え、実践していきます。

